

# 明星タイムス

# 号外

## 万博

## 2030年へ

### 「原動力となれば」

「国際博覧会について、どんなイメージを持っているか」そう問いかけてきたの大阪府政策企画部万博誘致推進室の森 栄子氏だ。

森氏は万博は6か月の一過性のものではなく、博覧会を通して大きな仕掛けをする事ができるのではないかと考え、多くの人に話を聞き、国に案を提出したそう。



↑太陽の塔の中

### 1970年万博 『人類の進歩と調和』

1970年、アジアで初となる国際万博が日本で開催された。テーマは『人類の進歩と調和』であり、敗戦を経験した日本の『永遠の平和』と『21世紀への架け橋』としての意味が込められていた。

### テーマ 『いのち輝く未来社会』

なぜ「いのち輝く未来社会」がテーマなのかというと、現在世界が抱えている問題が、高齢化社会であるからだ。日本や先進国だけの話ではなく、今後世界各国でも高齢化社会になっていくだろう。

だが、現在先進国の中でも日本が一番高齢化社会問題を抱えているが、その問題を解決するためのライフサイエンスの専門家、技術や産業の力を持っているのが大阪、関西であるという。途上国では、高齢化問題は現在はないが生活習慣病、疾病への課題を日本から提案し世界を変えていきたいという。



右の写真は1970年万博のテーマは「人類の進歩と調和」で、シンボルマークは5大陸と日本の桜をイメージして作られていた。

### 過去の万博の『思い』

#### 『思い』

日本万国博は、輝かしい伝統を受け継ぎ、世界の諸国民が産業、経済、科学、技術、文化、芸術など、人間活動のあらゆる分野で達成してきた創造的活動の成果を展示し、諸国民間の理解と、寛容の精神に基づいて、それぞれに築き上げてきた多種多様な伝統の、相互交流を促進することによって、人類社会の調和のとれた発展に、貢献すること。また、世界には様々な文明が多元的に共存することを、理解の寛容の精神によった認め、それらの多様化の調和のなかにこそ進歩が望まなければならない、という「調和的発展」の精神があり、これは東洋思想の「和」の心を現代世界に呼び戻して、東西を結ぶ新しい理念として発展させようとするこの2点を掲げて開催した。そして、アジアで初めて開催された万国博として、アジア以外にありふりか、中南米などの文化が、欧米の先進国の文化遺産の展示品とならびに、展示され、美術品も各国の伝統が育んだレベルの高い作品が集まり、それぞれの間に対比と調和が求められた。

### 最後に

今回このような重要なプロジェクトに参加させていただきありがとうございました。学校の中では体験出来ないような様々な体験ができ非常に勉強になりました。私は新聞部の一員にもかかわらず、これまで取材らしい取材を一度もしたことがなかったので、今回のこの合同取材でたくさん取材ができ、一つ新聞部としての格が上がったとかんじました。これからも常時の学校新聞の発行や後輩教育のためにもっともっといろいろな経験のつまったプロジェクトに参加していきたいと思えました。最後になりますが今回一緒に同行させていただいた清風高校のみなさんと四天寺高校のみなさん、そしてこのプロジェクトに誘っていただいた共同通信社のみなさん本当にありがとうございました。



↑今回のシンボルマーク